	理工学部応用化学科
DP	応用化学科は、本学立学の精神と本学部人材養成目的に基づき、次の資質・能力を身につけた学生に学士（工学）の学位を授与します。 ①幅広い教養と語学力・表現力を身につけ、それに裏打ちされた広い視野と高い倫理観をもって、社会の発展に貢献する意思と能力を有する。 ②化学に関する専門分野において以下の能力を有する。 1）化学の持つ有用性と危険性を十分理解し、化学物質の取り扱いが安全にできる能力 2）化学的な評価技術を用い、環境や安全面に係る化学物質の正当な評価ができる能力 3）化学的な問題を抽出し、解決までの道筋を立てられるエンジニアリングデザイン能力 4）社会的要請を理解し、化学的な知識に立脚して問題解決に取り組む能力 ③生涯にわたり主体的、自立的に探究する能力を身につけ、さらに、社会において課題解決に向けて協働して取り組むことのできる能力を有する。
CP	応用化学科は、卒業認定・学位授与の方針に示す能力を身につけさせるため、教養教育と専門教育より構成される教育課程を編成します。二つの分野において一定数以上の単位の修得を義務付け、理学あるいは工学の枠を超えた深い知識・理解を身につけるための幅広い学修を求めます。以下の1）～4）に示す専門的能力を有する人材を育成するため、教育課程を編成し、実施します。 1）化学物質の持つ特性を正当に評価し、倫理観を持って社会還元ができる能力を持つ人材 2）社会的要請に対応し、新たな化学物質の開発に係る基本方針が理解できる人材 3）化学の領域だけに留まらず、幅広い理工学の領域に発展に協力することができる人材 4）国際化社会に対応できる情報収集能力を身に付け、公正な倫理意識を有する人材 ①教養教育は、外国語、体育科学、人文科学、社会科学等の教養科目と数学、物理学、化学、技術者倫理等の理工学基礎科目により編成される。これらの科目を学ぶことにより専門分野を超えた幅広い視野と倫理観を養うと共に、専門教育に進む上で欠くことのできない知識を養うことができるようにする。 ②専門教育では、理学あるいは工学の専門知識を深めるために基礎から応用への順次性を保ちながら、科目相互を体系的に編成している。化学の専門分野に関する講義科目と、それに関連する演習・実験・実習が有機的に結びついた授業を実施することにより、机上の学修にとどめず幅広く専門知識を学び、社会の変化に自在に対応して問題解決する能力を養うことができるようにする。 ③教養教育で能動的学修の要素を取り入れた教育を用意する。さらに、専門教育では動機付けの教育を行うと共に、複数の科目でそれに関連する演習・実験・実習科目を実施して、能動的学修を行うことができるようにする。最終学年の4年次で行う卒業研究では、主体的に学ぶ姿勢と共に、他者と協力しながら課題を解決し、生涯にわたって活かすことのできる総合的学習と創造的思考力が培われるようにする。 ④応用化学科では、シラバスに示した内容に基づいて厳格に成績評価して単位認定する。学生個別の成績表にもそれを記載して学修指導や各種順位づけに利用できるようにする。成績や学修態度を総合的に判断して個別指導する体制を整え、学生が各自の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。
AP	※2026（令和8）年度から学生募集停止。
アセスメント・ポリシー	学科レベルでは、ディプロマポリシーの科目群ごとのGPAの数値に加えて、単位取得状況、学修行動調査、卒業時調査及び学生アンケートにより評価する。 科目レベルでは、シラバスに記載してある方法で成績評価を行う。評価は、テストやレポートなど科目の内容に合わせた方法で実施する。 卒業研究については、学科が定める評価基準に基づいて卒業論文等の成果を評価し、学科レベルでは、その集計値で評価する。